



念じられ 照らされて

南無阿弥陀仏の心わするな

小原正憲

あらたまの
年の始めを祝つとも
南無阿弥陀仏の
心わするな

本願寺八代目の蓮如上人は、新年に当つてこのような句を詠まれました。

おさいせん百円玉一つ
ぼんと投げて 手を合わす
おねがいこの多ごと

こちらは、相田みつをさんの言葉です。新しい一年の始まりをめたく喜ばしいと思ふ心がありますが、一年を自分の思い通りにしたいという煩惱が表現されています。私たちが明けても暮れても煩惱に振り回されているのは、それが捨てられないものだからです。つまり私たちは「煩惱を持って身」ではなく「煩惱でできている身」

なのです。

親鸞聖人は、凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころをおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず

（『一念多念文意』）

と述べておられます。冒頭の句は、「この娑婆を、何を依り処として生きていくのか」という蓮如上人からの問いかけであり、欲得に振り回されるこの身に「南無阿弥陀仏の心をわすれず、覚悟をもつて生きてください」という願いであります。

門松は
冥土の旅の一里塚
めでたくもあり



（略歴）
一九四七年高山市生まれ。専念寺住職、飛騨慈光会理事、高山市仏教会会長他歴任。寺内景観保存会長、高山教区会議長、高山別院責任役員。

めでたくもなし

禅の一休和尚はこのような句を詠まれました。新年を迎えてめでたいこととありますが、しかし年々歳々、臨終に近づき、何時終えるとも知れないこの身。「須臾の間」という言葉があるように一生は、まばたきする間のことなのです。その人生を、「空しく過ぎるな」という句です。それはまさに、親鸞聖人が本願力に「あいにぬればむなくすぐるひとぞなき 功徳の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」（『高僧和讃』）

意味には、「死んで失わずを寿という。死んで終えるを命という」とあるようですが、私たちは死んで失わない、死んで終えない「寿」を願い求めているのでしょうか。人生は旅に譬えられませんが、旅を意義深くするには、帰すべき、還るべき処がはっきりしていることが大切です。ひとり旅に出る安心できるのは 帰る家があるから 人生は 生涯をかけたひとり旅 どこに向かい どこへ帰るのか 南無阿弥陀仏は わたしの帰る家からのよび声

「子ども報恩講」においでよ!

日時 3月31日(土) 午前10時～午後3時頃

内容 おつとめ、おはなし、ゲーム、おとき(うどん)など

持ち物 お念珠、おつとめの本

参加費 500円

会場 高山別院 仮本堂(庫裡ホール)など

※下呂・古川・白川各方面～高山別院までバスをご用意しています!! 詳しいお問合わせは高山教務所へ

別院真宗公開講座のご案内

2018年2月26日(月)

テーマ 「壁」を前に祈り、そして考えよう
— 真宗・戦争・ハンセン病 —

講師 柴田すい子氏
(ハンセン病の国家賠償訴訟原告)

会場 高山別院 仮本堂(庫裡ホール)

時間 午後2時から4時

聴講料 600円

新春のご挨拶

お念仏ころに入れてもうさせたまうべし

高山別院輪番 三島多聞

ヘレン・ケラー女史が八十歳になった時、インタビュアーを受けました。「もし神さまが目か耳か、どれか一つを回復させてあげると言われたら、どれが欲しいですか」と。ケラーさんは言下に「耳が欲しい」と答えられました。その理由は「ここに光が入るのは耳からだからです」と言われたそうです。ここに光が入る光こそが真実の光であることを言っています。八十年間、目の見えぬ闇の中にあつて真実に求め続けた光は、ここに灯る光のことだった。自問してみましよう。私のここに灯っている光はあるか? 目で物が見えても、ここが闇では人間を生きることになりません。

親鸞聖人は「聞光力」ということを言われました。「光を聞け」と。『正信偈』に阿弥陀さまのはたらきを十二の光明で表現してあります。その一つが「超日月光」です。阿弥陀さまは、日の光、月の光を超えた光であると。日・月を超えた光とは、見るものではなく、聞くことであることが知らされます。聞光力とは、お念仏・南無阿弥陀仏を聞く。聞いていくところに真実、自分というものがわからせてもらえる、そういうはたらきの力を賜うというお言葉です。「お念仏ころに入れて申させたもうべし」という親鸞聖人のお言葉は、お念仏を声に出して申せということなのです。声に出したら、そのお念仏は耳に聞き、ここに入るからです。ここにいられてこそその光です。新年の挨拶も声に出してこそ、互いのところに通じるのです。明けましておめでとうございます。

念佛成仏 是眞宗

Jun.K

飛驒御坊御遠忌七五〇

御遠忌記念事業「**莊川桜**」真宗本廟植樹

「莊川桜を東本願寺に植樹しよう!」そんな声が上がったのは二〇一〇年のことでした。二〇一七年十二月十一日、天候に恵まれた中、「莊川桜真宗本廟植樹式」が執り行われました。式典には、ご門首夫妻や宗務総長、移植を手掛けていただいた加藤造園の方々のほか、高山教区から足を運んだ莊川・白川を中心とした団体参拝の皆さまなど、総勢百名を超える方々が参列されました。

植樹された桜は三本。二〇一五年に植樹の準備として行った「根回し」からはそれぞれ二メートルほど成長してまいりました。阿弥陀堂南側と、今年八月に竣工した和敬堂へと続く道沿いに植樹されました。来年の春には満開とまではいかなくとも、パラパラと花を咲かせてくれるのではないかと期待されます。

莊川桜植樹事業に長年尽力された渡邊登氏(真宗大谷派参議会議員・莊川組蓮勝寺門徒)は、「莊川桜を東本願寺に植樹するということは、お念仏の教えを飛驒の地にいただいた恩返し。それが出来たことはこの上ない喜びです」と語られました。



記念事業 高山別院本堂御修復工事【第二期工事】

耐震補強工事・内陣莊嚴御修復工事の施工業者を決定

別院御修復の第二期工事である耐震補強工事及び諸設備整備工事について、九月十二日の入札により「奥原建設株式会社」が落札しました。また、本堂内陣莊嚴御修復工事については、九月十九日に見積書の提出と工事専門委員会による審議により、「株式会社小堀」が選出されました。十月十一日には院議会の議決がなされ、諸手続きを経て十二月には両社との契約が正式に締結されました。

耐震補強工事については、昨年末までに仮設物や仮囲いの設置が行われ、本年一月から本格的な工事の準備が整えられてきました。

工事が完了を極力早めるため、冬場の工事としてまず初めに屋根裏の耐震補強工事が行われ、耐震壁設置のための既存壁の解体が進められます。

なお、この工事につきましては現在二〇一八年十一月下旬を予定しており、工事中は高山別院庫裡ホールが仮本堂となっております。境内に工事車両が出入りするなど別院へお越しの皆さまにはご不便、ご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

施工業者

【耐震補強工事・諸設備整備工事】

奥原建設株式会社
本社：高山市総和町
創業：大正8年
資本金：30,000,000円
代表取締役社長：奥原崇司
契約価格：270,000,000円
(設計見積価格：291,589,200円)

【内陣莊嚴御修復工事】

株式会社小堀
本社：京都市下京区烏丸通正面上る
創業：安永4年
会社設立：昭和25年1月
資本金：60,000,000円
代表取締役社長：小堀 正
契約価格：37,000,000円



耐震工事のため本堂には足場が組まれました。



本堂天井板が撤去され、その後天井裏耐震補強工事が行われます。



のままでいいのよ、今の世、この私
雑行も棄てて 本願に帰す

御遠忌・御修復懇志金御進納状況御礼

御遠忌御修復懇志金につきまして2018年1月11日現在、次の通り御進納いただいております。

収納総額 **340,758,355円** (進納率81%)

厳しい経済環境のなか、尊い御懇念をお寄せいただき厚く御礼申し上げます。

今後とも何卒ご理解・ご協力を賜りたく、お願いいたします。

御遠忌ブックフェア開催中!

田近書店 2月頃まで
(三福寺町)

ブックス・アイオー
(岡本町) 5月頃まで

是非一度お立ち寄りください。

定例法座・法話(午後1時から) ○1月21日(日)：伊達俊幸氏「稱讃寺」 ○1月27日(土)：三島多聞輪番 ○1月28日(日)：小原宗成氏「圓龍寺」 ○2月1日(木)：春國文春氏「玄興寺」 ○2月11日(日)：三島多聞輪番 ○2月13日(火)：白川悟氏「願生寺」